

児童数配布

第52号
(通算138号)

突然ですが、…この写真にうつっているのはだれでしょう??



写真の右側は、本校PTA会長の小林さんです。そのお隣はというと、小林さんの同級生で、本校の卒業生の方です。お名前は森隆久さんといいます。

実は、森さんは現役のプロの落語家さんなのです。二代目桂春蝶のお弟子さんで、平成27年4月に三代目桂花団治を襲名されています。その一方で、花団治さんは、自身の学生時代の悩みや経験をもとにした講演やワークショップを多くおこなわれていて、自他ともに認める「大阪で一番多く教壇に立つ落語家」としても有名です。

今回は、本校卒業生ということで大変お忙しい中、無理をお願いして、5年生のために「落語によるコミュニケーション」と題した特別授業を2月21日

におこなってもらいました。

前号の校長室だよりにもありましたが、本校では6年生を対象に「キャリアプロジェクト」という、職業や仕事を考える中で子どもたちが「10年後の自分探し」のきっかけをつかむための一連の授業をおこなっています。

キャリアプロジェクトは単なる職業(仕事)体験ではありません。子どもたちが将来の自分自身の生き方を探すためのきっかけ、そしてそのための学習に対する動機付けとすることを目的としています。

そのため、様々な「プロの仕事家」から、子どもたちの興味関心にもとづいてお話しをうかがったり、実際にその仕事の一端を実習という形で経験したりしますが、それと平行して、社会にある、様々な課題(人権教育、

多目的教室の特設高座です!



国際教育、多文化共生、男女共生、命の教育等々)について、学年の子どもたちの発達段階を考え、場合によっては全学年を対象に、あるいは低学年と高学年をわけて、またときには高学年だけにしぼって、外部からゲストティーチャーに来ていただいて、子どもたちに「ほんとうの体験」をさせています。

こういった経験が、子どもたちの中に蓄積されていき、それが学年を追うごとに子どもたちの中で「熟成」されていき、最後の6年生での「キャリアプロジェクト」が効果的に生きてくると考えています。

今回の桂花団治さんの講座は、上方の伝統芸能、伝統話芸の「ほんまもの」にふれることで、児童が言葉の面白さや笑いの妙を体得し、コミュニケーション力を体験することを狙いとしています。

本芸の落語を聞かせて

もらいますが、進行は「ワークショップ(参加型)」になっており、落語での扇子を使った所作でさまざまな動きを表現することや、「大喜利」をチームになって体験したりしました。最初はやや緊張感でしたが、自分が参加していくことで次第に緊張がとけ、言葉の使い方、間合いの取り方で、相手を笑わすことができること、また、話し方ひとつで相手との関係をうまくつくっていくことなど、友だちだけでなく、家族や先生、あるいはこれから社会で出会う人たちと、コミュニケーションをうまくとることの大切さを感じたのではないのでしょうか。

最後は、本校卒業生ということで、校歌を子どもたちと一緒に歌っていただきました。

1時間だけでしたが、たいへん貴重ないい経験をしました。花団治さん有難うございました!



落語の所作の説明です!